


令和3年度環境の学校 Green プロジェクト実施報告

事業名	環境の学校 Green プロジェクト
活動概要	<p>市内在住・在学・在勤の方が参加 発表会には10名が参加。(受講生は16名)</p> <p>・内容説明：パンジーやイチゴの植え付けや育成などのワークショップを通して、草花やみどりをテーマとした、自然の「循環」や「生物多様性」などの環境問題を学び、理解を深めていく。</p> <p>★講座チラシ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

活動スケジュール・内容		
日時	タイトル	概要
第1回 9月26日(日)	ようこそ Green プロジェクトへ ～パンジーを植えてみよう～ ・講座「植物が育つために必要な要素と堆肥」 講師:針谷 亜希子 (自然教育研究センターインタプリター) ・パンジーの植え付け体験	パンジーの植え付け体験を通して「植物」に関する環境問題や自然の循環を学ぶ。 
第2回 10月17日(日)	イチゴを育てるのは大変? ～イチゴから環境問題に目を向けてみよう～ ・講座「イチゴが育つ環境から考えてみよう」「イチゴの栽培について」 講師:針谷 亜希子	イチゴの植え付け体験を通して「イチゴの育つ環境」から自分達の身の回りにある環境問題を考える。

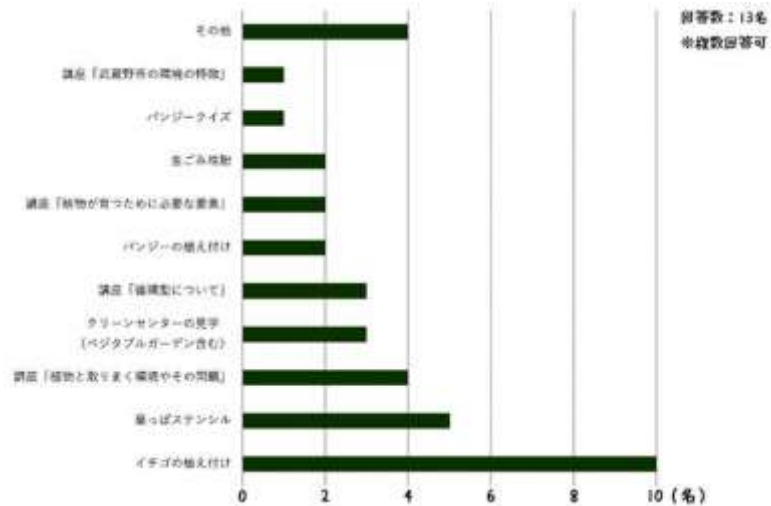
	(自然教育研究センターインタプリター) ・イチゴの植え付け体験	
第3回 12月5日(日)	草花の栄養になるものに注目! ～自然の中では「ごみ」はない!～ ・クリーンセンター、生ごみ堆肥場、屋上菜園(センター屋上)の見学 ・講座「武蔵野市の環境について」 山村 宜之 (むさしのエコreゾートディレクター)	むさしのエコreゾートが昔のクリーンセンターという歴史を踏まえて、市のごみ問題に着目して環境問題を考える。 
第4回 1月23日(日)	循環型ってなんだろう? ～これまでの講座から考えてみよう～ ・講座「循環型社会ってなんだろう?」 講師:針谷 亜希子 (自然教育研究センターインタプリター) ・エコチャレンジに向けての話合い ・各自のイチゴの育成状況報告	これまでの講座を振り返りながら身近な例をあげて循環型社会やSDGsを考え、自分達ができる取り組みを考える。 
発表会 3月6日(日)	第1回むさしのエコ・チャレンジ 受講生による発表	

参加者の学び・感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・各回受講後に行ったアンケートからは、「イチゴも育てられるワークショップが面白そう」「実際にみんなと作業をしながら、身近な環境のことも学べて楽しい」「環境問題・SDGsと聞くと難しいと感じていたが、自分たちの暮らしの中にある身近なものと結びつけて考えられるんだという『気づき』をもてた」というような感想・意見が多く挙げられた。 ・一方では、「発表会での発表をどのようにしたらいいか困った」「植え付け等のワークショップだと天候に左右される」等の課題もあがった。
------------	--

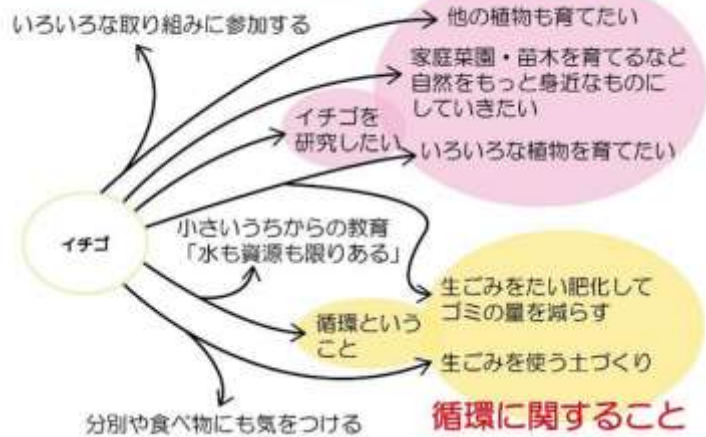
振り返り・課題 今後の展望	<p>■全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、「緑の市民講座（緑のまち推進課から移管）」として単発講座を2回開催したが、今年度から講座名も内容も変更し、「環境の学校 Green プロジェクト」として初めて開催する連続講座だった。コロナ禍でも、全講座が対面実施できたのは喜ばしい。 ・環境の学校と同様に、10代から70代までの幅広い年齢層の参加が見られた。「草花」の育成に関心がある方が参加しているのと、「イチゴ」の育成という共有体験から打ち解け、環境問題をテーマにしたグループワークでも世代を超え、意見を交わしあう姿が見られた。雰囲気はとてもよかったと感じる。 <p>■発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座概要を発表後、受講生に運営委託事業者がインタビュー形式で以下の質問に関するコメントを発表した。受講生には、事前にアンケートを実施。 <ol style="list-style-type: none"> ①全4回の講座で心に残っていること ②その理由 ③これからどんな行動ができる？ <p style="margin-left: 40px;">また、環境問題で気になることや今後学んでみたいこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「イチゴの植え付け」が一番多かった。 ②「イチゴを育てるのに必要な堆肥は、生ごみを使って作れることを学んだので、土づくりをもっと知りたいと思った」「今まで生ごみは「燃えるごみ」として認識していたが、「ごみ」ではなく立派に「堆肥」になるという「気づき」を得られたから」という回答が見受けられた。 ③「ごみをごみにしない、捨てない方法をかんがえる、もっとごみの分別を真剣にする」などごみ削減の取り組みをしたいという声が多くあがった。「循環とは何か、環境とは何かを考えることができた」「SDGsも大きく身構えるのではなく、身近にできることから始めればいいことがわかったので、今から実践したい」という声も。
------------------	---

★発表会で使用した資料

全4回の講座で印象に残っていること



イチゴの植え付け体験から生まれた想い **植物に関すること**



■課題・今後の展望

・イチゴやパンジーの植え付けという共有体験を通して、受講生同士つながりが深まって、半分以上の方にプレサポーター登録してもらったにもかかわらず、その後どういう風にエコ re ゾートに関わってもらおうか、具体的なサポート内容の提示が不備だった。今年度はコロナ禍でその提示が難しい状況だったが、次年度はフルオープンを見込んで、受講生全員が受講後もエコ re ゾートに関わっていけるような仕掛け（例えば、修了生の有志で敷地内緑地に緑のカーテンや花壇を作る等）を事業者と考えていきたい。

・アウトプットする体験が少ない方が大半を占めていたので、発表会の壇上で

「発表する」という行為に躊躇していた様子が見受けられた。

必ずしも「発表」というスタイルではなく、発表会場ではブース出展も行っているため、そこで出展することを提案したい。例えば自分達が育てた草花などやそれに関するテーマの環境問題をブース内で展示。受講生が見に来られた来館者に対応する「ガイド」になるなど。受講生自らが「それなら、やってみよう！」と思えるような発信方法を模索したい。

・自宅ではなかなか育てない果物「イチゴ」を教材に選んだことで、募集チラシを見て興味を湧いて、申し込みに来られたという方が多くいた。環境に関心のない人が最初は興味本位で参加しても、自然に環境のことを学び、暮らしの中でも取り組んでいこうと意識できるようになればと思うので、次年度も興味を惹きつけられるような企画を考えていきたい。

・環境の学校と異なり、Green プロジェクトは「草花・みどり」をテーマとしたところから環境問題を掘り下げていったため、発表会のインタビューでも今後やってみたいことが、みんな似たような内容で広がりを感じられなかったため、もっと広い視野で環境問題をとらえられるような組み立てにしたい。